

月刊 まち・コミ 2009年11月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



台風23号（2004年）水害から5年 出石鳥居やすらぎ市民農園とまち・コミの活動

兵庫県豊岡市出石町鳥居地区（以下、鳥居地区）は、2004年10月の台風23号により、出石川が決壊するという被害に遭いました。まち・コミは、阪神・淡路大震災の復興まちづくりで得た教訓を活かし、短期復旧救援だけではなく、復興まちづくり、そして日常のまちづくりを支援する団体であるため、コミュニティの再建活性化を目指して、活動と模索を続けています。

ご支援のおかげで、3反ではありますが、野菜を作り続けることができ、台風水害で中断していた鳥居やすらぎ市民農園は、2007年3月に再建できました。とはいえ、まだまだ貸し農園は区画が空いていますし、地域の耕し手が減っているようです。これからは、農地を緑にしていくと共に、地域づくりや担い手探しを考えていかなければいけない時期です。農園の利用をしっかりとって、そのヒントを地元の方と共有できればと思って行動しています。

今号では、2009年の出石鳥居やすらぎ市民農園でのまち・コミの活動を報告します。
（2008年までの活動は2008年7月号に報告させていただいています。）



豊岡市出石町の鳥居橋の再建中の様子（2009年11月7日現在）

まち・コミ活動報告



2009年度は、活動日数29日、延べ人数134人。学生や社会人の方が参加してくださっています。まち・コミでは、メールや電話やブログにて参加者を呼びかけています。ご興味のある方が参加してください。

野菜の購入応援団を募集し、交通費、肥料代、資材代、土地賃料等を支払いの一部にしています。2009年の購入応援団は、計315人(43人(秋黒豆)、47人(夏黒豆)、61人(じゃがいも)、164人(たまねぎ))にもなり支えて頂いています。

ありがとうございます。

現在交通費を賄うことに精一杯です。これからは、農園利用の魅力づくりのために、さらなる工夫が必要です。人数的には、たくさん行くことで、現在3反の畑を耕すのに精一杯のところを、時間を作り、魅力探しと鳥居の方との共有にも、活かしていきたいと思っています。今後とも応援よろしくお願いします。

出石町鳥居地区の方からの感想

水害から5年と市民農園再建等を振り返って

「最初は、鳥居の方とまち・コミの交流から始まりましたが、農園の借主さんや、木村さん達(右頁)が来てくれて、交流の輪が2重になりました。また食事に、近隣の地域の方が来てくださいます。1度新聞に載せて頂くと「季節の料理の作り方を教えて」とか「野菜はありますか?」と問い合わせが必ず3件くらいはあります。」

「鳥居のさと(地元ご婦人方で運営する食堂)で笑顔が増えました。笑顔も毎日積み重ねないとできないんですね。急に笑うとなんか変なんです。豊かさが一つずつ増えているような気がします。毎日昼食は、平均10人ほどですが、毎日おかずを考えるのが楽しみ。もっと利用者が増えればもっと楽しみですが。若いスタッフも来てくれて、ますます明るくなりました。皆が来て、刺激があるとみっともないことはできないので、こちらも張り合いがあります。人が増えれば増えるほどいろんなつきあいが増えて、めんどくさいこともあります。確実に良いこともあります。」

鳥居のさとの思い

「地域の人、特にお年寄りに、たまには外に出て、いつもと違った食事を楽しんでもらうふれあいの場でありたいと思います。季節の料理をできるだけ採り入れるようにしています。年末や収穫祭のイベント時に餅つきをしますが、いつも売れ行きが良いです。懐かしいのでしょうか。食べると昔の事を思い出すのですね。お盆のお団子等、子供の時を思い出すのですね。昔の事を思い出すのは、少し良い気分になれるでしょうね。」

まち・コミについて

「まち・コミみたいな素人でも野菜ができるのですから、いろいろ気づいたんじゃないでしょうか。以前にもまして、地域の方も、いろいろ考えて肥料の工夫をしたり野菜づくりに力が入り始めました。活動を支えるため、購入で応援してくださっている人がいるのもすごいと思います。人の力に支えられています。災害の時助けてくれた人が、未だに、鳥居やすらぎ市民農園を応援してくれていることは、ありがたいことです。」

やすらぎ市民農園オープンから2年半の利用者の声

私たちが鳥居やすらぎ市民農園のことを知ったのは、オープンを間近に控えた頃。素晴らしい有機農業者に教えていただける市民農園という噂を聞き、ちょっと農業をかじってそのついでに映像でも紹介してみようと、会の有志数名で借りることにしたのです。開園日に訪ねてみると、そこにはなんと旧知のまちコミ・田中さんの姿が（実は香美町安木の古民家解体のときにお出会いしていました）。そのとき、水害がご縁でずっと支援に来られていることを初めて伺い、インタビュー映像を撮らせていただきました。このときの「助けるつもりが助けられ」という映像は、普段のままの田中さんの笑顔とお話がステキな住民ディレクターらしい映像で、今でも私のお気に入りのひとつです。

初心者の私たちが悪戦苦闘しているころ、お向かいのまちコミさんの畑では美味しそうなニラやアスパラなどが大豊作。収穫物をいただいて帰ったり、タマネギの収穫体験をさせてもらったりと、自分たちはまだまだ収穫に至らないころから畑ライフを楽しませていただけていました。当時は、車で15分ほどの私などよりもよほど熱心に通っておられ、良い目標にもなりましたし、ちょっとした異文化交流(?)も楽しませていただきました。

実はこの秋から市民農園の近くに拠点を借り、軽度発達障害者やニートなど、生き辛さを抱える若者のための「暮らしの学校」を作りかけています。農作業をベースに、暮らしに必要なスキルを学べる場にしようという我ながら無謀な試みをスタートしたのですが、正直、まちコミさんたちの活動がなければ、ここまで踏み切れていなかったかもしれないと感じています。ボランティアを集めて一気に植え付けや収穫のできる作物を作るといふ手法にも学ばせていただきましたし、何より、地元・鳥居の人がこんなふうによそから人が来ることを喜んでくださるのは、長年交流されてきたまちコミさんへの信頼がベースになっているような気がしてならないからです。本当にコツコツと活動を続けられてきた成果だなと思います。

農業やまちづくりの先輩として学びたいことはたくさんありますし、逆に、まちコミさんが無理なく長くこの活動を続けていけるようにお手伝いできれば、地元の人にも喜んでいただけるかなと思っています。ということで、これからも末永くよろしくお願ひいたします(^.^)。

但馬を映像で発信する会 代表
特定非営利活動法人ダーナ 暮らしの学校「農楽(の〜ら)」代表
木村 尚子

住民ディレクター：テレビ番組制作の手法を使ったまちづくり活動。 <http://www.e-tajima.jp/> の但馬TV 番組 > 過去の番組 で、まち・コミ農作業の様子も見られます。

.....

農園の事は、出石町の広報誌で存在を知りました。農園までは15分くらいのところに住んでいます。家でもプランターに花々を植えていました。昨今のブームもあり、野菜も農園を借りてみようと思い、2009年3月に申し込みました。時間はあまりありませんが、近いので、手があいたちょっとした時間でも畑に行こう！と思って行きます。週2回くらいは来ています。設備（水道、虫除け、シカ対策等）もあるので、利用料は安いと思います。いろいろ野菜づくりも教えてくれますし。家の周りにも畑がありますが、山が近く、虫や蛇が多く怖いのです。

出来た野菜は、全部がうまくなるわけではありませんが、自分で作った野菜なので、おいしく喜んで食べています。
(市民農園を借りている方)

みくらエッセイ

「御蔵との交わりをとおして」

渡邊 俊一郎

先日、御蔵集会所の前で掃除をしている住民の方をお見かけしました。折角の機会と
思い立ち話をすると、集会所建設に関わった若いボランティア達が現場から何かしらの
ヒントを持ち帰っていったことを喜んでくださっている御様子で話をしてくださいま
した。私は集会所建設を通して、建築の勉強を始めさせていただきました。幸いだったの
は、それが古民家を転用した集会所の建設現場であったことだと思います。

古民家の材料はほとんどが自然素材です。柱、梁はもともと山に立っていた木ですし、
壁は大地から採った土です。そういった素材を人間が暮らせる場を作るために工夫して
使ってきました。そこには多くの知恵があります。素材を活かすためにはその強み、弱み
を理解することが大切です。人間の暮らし方を観察し想像することも大切になってき
ます。ただ素材も暮らし方も完璧には分かりません。先人たちは多くの失敗を繰り返し
ながら、それでも試行錯誤を重ね民家をこしらえてきたのだと思います。

集会所建設の労働力は沢山の人です。建設当時、私も御蔵の住民の方と一緒に壁を塗
らせていただき、建設ボランティアとして一緒に汗を流しました。建築士の方の設計に
刺激され、職方の仕事を側で見せていただきました。私にも手伝えることがあったとい
うことはうれしいことでした。集会所は大勢の暮らしが交わる場所です。考え方も暮ら
し方も人によって違います。それぞれの暮らしの中に、共有できる場所を自らの手でつ
くり上げることは素晴らしいことだと思います。

私は集会所建設のご縁を通して御蔵の方々との交わりを持ったのです。私にとって、
建設現場での経験は建築と直に触れることができた、得がたいものだったと思います。
施主、設計、施工どれが欠けても良い建築にならないと考えるようになりました。作り手
は住み手のことを考えると手が抜けません。住み手は作り手のことを考えると雑には住め
ない。多くの苦勞を伴いながらも、その建築によってしかできない暮らしがあるという
ことを教えていただいたように思います。そしてこれからの時代も、住み手に求められる
暮らしは、過去との接続を持ちながらも変わっていくように感じています。

今年の春から、私は東京の某工務店で建築設計の仕事に携わり始めました。住み手の
暮らしを支える建築に誠心誠意取り組んでいきたいです。

これからも御蔵のまちと集会所の展開を楽しみにしています。また寄せてください。

○プロフィール○

わたなべしゅんいちろう

1984年 信州松本に生まれる

2008年 松本深志高等学校卒業

2007年 神戸大学学士課程修了

2009年 神戸大学大学院修士課程修了

2009年— 現在、東京の工務店設計部



まち・コミ news



遠藤勝裕氏を招いて、語り部研修会を開催しました

10月22日、震災当時日銀神戸支店長だった遠藤勝裕氏(日本証券代行株式会社取締役相談役、まち・コミュニケーション顧問)を招いて、研修会を行いました。

「大災害と街の復興 神戸からの教訓」をテーマに、約2時間にわたってお話してくださいました。

印象深かったのは、経済人の立場から見ると、大災害では第1の危機「発生直後の命、財産の危機」と第2の危機「発生直後の社会的危機」があり、第1の危機は天災で、具体的な対策が定着しつつあるが、阪神・淡路大震災から15年が経とうとしている現在も、まだ人災である第2の危機の延長線上にあるとのこと。目には見えないが、被災者の生活や日常の水準が、震災前と比べて低くなっているとの指摘がありました。



そのほか、神戸支店長時代に行ったボランティア「神戸復興支援何かをしてん会」のこと、平成3(1991)年10月の台風19号での被害を受けたリンゴ農家の支援をした青森支店長時代のこと、都市銀行再建に奔走したことなど、お話は多岐に渡りました。

まち・コミの震災学習については「正確に語り継いでいくことが、活動の重点。子どもに伝え、子どもから広げていくことが大切」とのメッセージがありました。(戸田)

大地のつばやき

震災後四度巡って来た市長選

震災十五年を前に十月二十五日投開票日があった。過去六十年間も助役上りの市長が続き、コングロマリット(株)神戸市が出来上がり、市長、市議、市職員の巨大な塊として蠢き、これに利権業者が加わり市民は置いてきぼりを食っていると言って良いだろう。その最たるものが神戸空港であり、住民投票三十五万票の軽視、大物市議親子の環境汚職、市立御影工業高校跡地売却問題、中央市民病院のさらなる遠隔地移転問題である。これらは社会正義の目に対して余りにも鈍感になっている。市民は今辟易している。民主党が天下を取って二ヶ月近い選挙でチェンジの余波が残っていると思っていた。現職は過去二度自公民三党の相乗り推薦を受けていたのが、直前の堺市長選で相乗り現職の負けを教訓にか、急遽民主に推薦依頼、突如小沢一郎がやって来て、現職と手を結び、自公の推薦を受けない条件で民主単独推薦となった。一方共産党は相変わらず勝算もないのに候補を立てる。中間候補にウェブ制作会社IMJの社長で「蟹工船」をプロデュースした四十六才徒手空拳の新人と三者の対立になった。中間候補は「三つのチェンジ」のキーワードで「地方も官から民へ」「情報発信」「ハードからソフトへ」の市政の変革を訴えた。民主党の唱えていることと殆ど変わらない。小沢が現職を推す理由は「自公と政治体制、国民、市民に対する考え方に明確な違いがある」はどうも解せない。解せないのが政治ではチェンジも嘘だろう。毎日新聞によると震災の傷跡は殆ど見えないが市の生活保護率(千人あたりの人数)は〇九年六月現在、二七・四と震災前年の一四・九から倍増、全国平均一三・三と比べ際立っている。長田区七二・八、兵庫区六四・五は群を抜くと。さて選挙の結果は御存知の通り投票率三一・五一%(前回三〇・二三)。三選を果たした現職の得票率四二・九%、中間候補は四〇・八%で、七八五二票の僅差で敗れた。捲土重来を期す。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

10/1 ~ 10/31

- | | | |
|----------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 10/1 2009年度第3回
まち・コミ運営委員会 | 10/16 まち・コミ打合せ | |
| 10/7 大阪ガス季刊誌「CEL」
による取材 | 10/17 観音寺お参り | |
| 10/8 関西学院大学総合政策学部
室崎ゼミヒアリング受入 | 10/19 中国語講座 | 10/28 長田活性化研究会出席 |
| 10/14 月刊まち・コミ発送 | 10/22 まち・コミ打合せ | 10/29 まち・コミ打合せ |
| 10/14 長田区 区民まちづくり会議
合同部会出席 | 10/22 語り部勉強会
(講師：遠藤勝裕氏) | 10/29 関西学院大学総合政策学部
室崎ゼミヒアリング受入 |
| | 10/25 出石市民農園
丹波黒枝豆収穫 | |
| | 10/26 中国語講座 | |

ご支援、ありがとうございます。

10/1 ~ 10/31

賛助会員(新規・継続)

碓田智子(大阪府) 関根美子(東京都) 山本俊貞(兵庫県) 上原照子(兵庫県) 辻野芳郎(兵庫県)
 山下憲子(兵庫県) 保田茂(兵庫県) 大谷成章(兵庫県) 森倉幹氏(三重県) 森下裕幸(兵庫県)
 佐藤麗司朗(東京都) 大塚康央(大阪府) 岡本誠(兵庫県) 武山ゆかり(東京都) 平尾章芳(愛知県)
 関西キリンビバレッジサービス株式会社(兵庫県) 江田隆三(東京都) 株式会社防災&情報研究所(東京都)
 大久保裕晴(大阪府) 遠藤勝裕(埼玉県) 濱田甚三郎(東京都) 杉本政子(兵庫県) 清水紀男(東京都)
 西村峰二(兵庫県) 唐澤和義(東京都) 宮下克己(兵庫県) 芦沢吉朗(青森県) 縄田房照(福岡県)
 長田光(千葉県) 川岸梅和(千葉県)

協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 11月8日、今年で35回目を数える神戸の恒例行事「六甲全山縦走大会」に参加しました。56キロの山道を延々と歩き続け、16時間かかって無事ゴール。健康に感謝の道のりでした。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

<p>2009年11月1日発行 編集/発行 まち・コミュニケーション 定価 100円</p> <p>御蔵事務所 〒653-0014 神戸市長田区御蔵通5-5 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961</p> <p>東京事務所 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部浦野研究室内</p> <p>神奈川事務所 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1 専修大学文学部大矢根研究室内</p> <p>e-mail m-comi@bj.wakwak.com URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/</p>
